

磐城時報

行發日二
編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 磐城時報社
發行所 磐城時報社
一部金貳圓 一月金貳圓
廣告料 一行十四字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

磐炭の地下採掘問題

市長の答申案内容

六日の本會議で論議

平市では二日開かれた市會に磐城炭礦出願にかゝる平市地下採掘に關する仙臺鐵山監督局から諮問案を提出したが、六日の本會議で論議される事になった。

石炭採掘に關する件
磐城炭礦株式會社出願石炭採掘の件昭和四年十一月二十五日及昭和七年七月四日元平町會に於て其の筋の諮問に對し公益上支障あるものと認むるの決議に基き之が答申を爲したるに更し昭和九年五月二日付仙臺鐵山監督局長より本縣知事に對し照會越したる趣を以て平町の意見を求められ平町會に諮問の上慎重調査を遂げ平町としては尙ほ不安なりとして採掘に反對の意見を堅持したるため仙臺鐵山監督局長に於ても平町の意見を容認し出願人たる磐城炭礦株式會社も採掘取下げ試験に轉願するに至り仙臺鐵山監督局長は昭和十一年一月二十二日之れが試験を許可し昭和十三年一月二十二日試験期間満了に依り更に同一地域を礦區として採掘を提出したるため昭和十四年三月一日付を以て更に本縣知事を通して本市の意見を求められたり。仍て之れが

平市吏員に對する 退隱料支給條例

平市吏員退隱料條例は紀元二千四百六十年記念事業として設定され、有給吏員に限る。十五年以上で退職した者に

を授け、公務のため疾病又は傷痍のため不具喪失して退職した者は給料の二百四十分の八十を支給す。左の者は取消す。六年の懲役禁錮以上に處せられたとき。毎年一月、四月、七月、十月の四回に支給す。昭和十二年五月三十一日以前に在職は通算せず。

平市吏員の旅費宿料
平市吏員の旅費其の他左の如く決定した。
鐵道 船賃 馬車 日當 宿料
市長 二等 三等 四等 五等 六等
助役 二等 三等 四等 五等 六等
主事 二等 三等 四等 五等 六等
書記 二等 三等 四等 五等 六等
視察員 二等 三等 四等 五等 六等
雇員 三等 四等 五等 六等
各種團體
明年度補助
平市では十五年度市内各種團體事業費に左の如く補助する事になった。

平市教育會 一、三五〇圓
聯合青年團 一、七四〇圓
平婦人會 五〇〇圓
磐城訓育院 三〇〇圓
衛生組合 三〇〇圓
平市農會 七〇〇圓
平商會 一〇〇〇圓
養蠶實行組合 七五〇圓
平日營會 一〇〇圓
火防婦人會 一五〇圓
國防婦人會 一五〇圓
傷痍軍人 五〇〇圓
植林實行組合 四〇〇圓

平市では都市計測部島地方委員會に五百六十圓、縣道小野新町平線市内平磐城橋架設費中一年を増す毎に百五十分の一

する事になった。十八錢、法人九十三錢。縣稅營業稅附加稅、年稅九十錢、其他七十五錢。縣稅雜種稅附加稅、屠宰稅六十七錢、不動產取得稅一圓五十錢、其他八十九錢。向後特別稅戶數割は五千六百七十戸に對し一月平均二十四圓七十九錢を賦課する。

本會議は
七日開會
平市會は二日提案事項の説明を終つて三日から六日迄休會、七日開會を開く事になった。

大浦村では二日開かれた市會に磐城炭礦出願にかゝる平市地下採掘に關する仙臺鐵山監督局から諮問案を提出したが、六日の本會議で論議される事になった。

石炭採掘に關する件
磐城炭礦株式會社出願石炭採掘の件昭和四年十一月二十五日及昭和七年七月四日元平町會に於て其の筋の諮問に對し公益上支障あるものと認むるの決議に基き之が答申を爲したるに更し昭和九年五月二日付仙臺鐵山監督局長より本縣知事に對し照會越したる趣を以て平町の意見を求められ平町會に諮問の上慎重調査を遂げ平町としては尙ほ不安なりとして採掘に反對の意見を堅持したるため仙臺鐵山監督局長に於ても平町の意見を容認し出願人たる磐城炭礦株式會社も採掘取下げ試験に轉願するに至り仙臺鐵山監督局長は昭和十一年一月二十二日之れが試験を許可し昭和十三年一月二十二日試験期間満了に依り更に同一地域を礦區として採掘を提出したるため昭和十四年三月一日付を以て更に本縣知事を通して本市の意見を求められたり。仍て之れが

火元渡邊金治氏
類焼者を見舞ふ
三千圓を贈る
大浦村上仁井田渡邊金治氏は過馬番産組合では六日平市團體事務の類焼者、神谷テフ、酒井次郎を協賛する。作、木村龜治。の四氏に對し二日見舞金として三千圓の外、一戸に對し白米一俵三万五千四百四十四圓にして内三万二千九百九十八圓は經常部、五千六百六十六圓は臨時部、合計三萬五千四百四十四圓にして十四年度執行するが、英夫君の遺志に

大浦村で
火災義捐金
大浦村役場に於ては二日大浦村上仁井田の火災類焼者に對し救済金として百三十圓を出した。尙同村小學校に於ても火災遺族に對し兒童より義捐を集めて

大浦村豫算
大浦村字狐塚陸軍歩兵上等兵大浦村字塔路町佐藤テフ子さん(二ツ)、村木町八神奈川縣鎌倉市大町八七二番村とみ子さん(四四)

水講生募集
小名濱水産試驗場では新入學生を募集してゐる、定員三十名で願書は來月二十日まで受付け二十八日の兩日試験を執行するが、修業二ヶ年、授業料は免除

平市人事錄
○出生 四丁四一熊坂太郎
氏長男信雄君、四丁字三友田二六〇小野正雄氏二男正君
▲死亡 本館久保町一六六太夫名好那塔路町佐藤テフ子さん(二ツ)、村木町八神奈川縣鎌倉市大町八七二番村とみ子さん(四四)

石炭礦區を賣ると 三千圓を詐取

三名共謀の石炭詐欺團

平署では数日前から内郷村鐵礦月報前内郷館で昭和燃料會社前昭和燃料株式會社出願所員取締役加藤信行氏に一万五千圓元警視廳巡查藤澤清太郎(五六)で賣る契約を結び手付金として同村内町石炭プロカ野木豊(四三)千圓を詐取した外、野木豊氏三石川郡石川町子文太郎(五)は東京市石炭商石井十郎氏から〇の三名を引致取調、中であら石炭を賣ると稱し八百圓を詐取るが、右三名は共謀して双葉郡した事を自供したが、更に三名瀧田村地内に三十萬坪の石炭礦は共謀して同様手段で一万數千圓を有してゐると稱し昨年十二月を詐取した事判明した

大浦村で 火災義捐金

大浦村役場に於ては二日大浦村上仁井田の火災類焼者に對し救済金として百三十圓を出した。尙同村小學校に於ても火災遺族に對し兒童より義捐を集めて

産馬區長會

石炭産馬區長會

水講生募集

小名濱水産試驗場では新入學生を募集してゐる、定員三十名で願書は來月二十日まで受付け二十八日の兩日試験を執行するが、修業二ヶ年、授業料は免除

平市人事錄

○出生 四丁四一熊坂太郎
氏長男信雄君、四丁字三友田二六〇小野正雄氏二男正君
▲死亡 本館久保町一六六太夫名好那塔路町佐藤テフ子さん(二ツ)、村木町八神奈川縣鎌倉市大町八七二番村とみ子さん(四四)

適正價格...秋冬荷揃へ
常に商品豊富
御用命は.....
平市 三井呉服店へ

戦線から

四倉出身 小松崎好吉
拜啓先日は御丁重にも磐城時報を御送り下さり誠に有難度う御座いました。時報社御一同様には其の何れの御變りもなく家事多忙なる折にも拘らず益々元氣にて就後にありて御活躍なされて居られるとの御消息中より喜ば居ります。私も御座様に其の何れの變りもなく皇紀二千六百年を陣中に迎ひ益々元氣にて戦闘に

『言』の一言にして盡く

神戸牛

すき焼

相始め申候

日本料理 山茶莊

電話五二〇番

毎度有難う御座います

パン食普及の時代!

二月十一日ヨリ

自慢の食パン 一斤二十銭

榮養パン バターロール
甘コッパン チョコレートロール
野菜サラダパン クリームロール
カレーパン・カツパン・黒パン

ペーカリー 東京堂

平市播穂小路【電話一〇八番】



おでん

始めました

出前迅速

十一屋食堂

平局前 電話三七三番

干やなぎ
いが切込み

平市土橋

丸仙商店

電話六六二番

安田生命 保
日本共立火災
東京動産火災 險

平代理店 井上貞治郎
平市五丁目 電話六六番

吸入用酸素純度99%

モノサシ
ハカリ
マス
体温器
寒暖計

写真機
材料一式
関内薬局
電話四〇番

平病院

院長 醫學博士 鈴木定藏
電話六四一

内科 院長 鈴木定藏
小兒科 副院長 土井利明

内臓外科 副院長 高橋俊幸
一般外科 院長 鈴木定藏

皮膚泌尿器科 院長 鈴木定藏
物理療法科 院長 鈴木定藏

薬剤科 部長 吉本孝平

内臓外科
レントゲン科
物理療法科
薬剤科

ダンス・鏡臺

御婚禮調度品を

是非 取揃へました

和久井屋

御越下さい
平市一丁目【電話四〇五番】



特約店 大平屋藥店
平市一丁目【電話二四六番】

漢方 生公華
貼藥
濕布で名藥
平市五丁目角
山野邊藥局

内臓外科
レントゲン科

北川外科

醫學博士 北川芳夫
平市新川町【電話四六四】

移轉廣告

今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候
昭和十四年四月

平市南町十四番地(警察署通り角)

木村外科醫院

木村 電話三〇九番

外科一般
内臓外科
性病科
肛門病科

◎入院應需

西村屋藥局

電話 3番です

藥品百貨

写真機材料の店です

平市本町二丁目

西村屋藥局

耳鼻咽喉科

入院自炊の便あり

大和田醫院

平市南町(電話一〇七番)

吉田眼科

平市新屋町(電話六八番)